



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

学 報

2009.12.10 Vol.122

三蔵五訓

真理を探究し、道理を実践する。
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。
生命を尊重し、自然を畏敬する。
個性を伸展し、紐帯性を培う。
未来を志向し、可能性に挑む。



特集

第1回ホーム カミングデー開催

特集 第1回ホームカミングデー開催	1
第35回 三蔵祭	3
地域連携活動	5
拡がる教育	8
キャリア教育	10
研究の今	11
学内トピックス	12
インフォメーション	13
平成22年度入試始まる	15
後援会情報	15



ACCREDITED
2007. 4～2014. 3

— 第1回ホームカミングデー開催 —

お帰りなさい 卒業生のみなさん！

福山大学 学長 牟田 泰三

第1回ホームカミングデーを10月25日(日)に開催しました。当日は、大学祭開催期間中の最終日にあたり、10時30分から大学会館で記念式典を挙行了しました。ホームカミングデーは、福山大学にとって新機軸の行事です。スタッフである教職員はもちろんのこと、旧教職員の皆さんも駆けつけて下さいました。

今年度に入るとすぐに、第1回ホームカミングデー実行委員会を立ち上げて、実施に向けて入念に企画・立案してきました。具体的な実施時には、実行委員会のメンバー以外の事務の皆さんにも大変お世話になりました。この実行委員会は、各学部から1名を委員として選出して頂き、これに学長、副学長、学生委員長、全学同窓会連合会長を加えて構成しました。なお、実行委員長は、私が務めさせて頂きました。ホームカミングデー実施に向けて、次の点に特に留意しました。ホームカミングデーは同窓会とは違い、福山大学が主催者となり卒業生の皆さんをお迎えする行事であるということです。卒業生の皆さんが福山大学に里帰りをして頂き、旧教職員も含め福山大学の教職員全員で温かくお迎えし、旧交を温めることが目的です。福山大学の発展には、大学自体の努力はいうまでもありませんが、その上に卒業生のご協力が不可欠です。従いまして、なるべく多くの卒業生に里帰りをして頂き、ホームカミングデーに参加して頂くことが重要な課題です。そのため、10月14日(水)に中国新聞の31面全体を用いて、「福山大学卒業生のみなさまへ」という見出しで、この大学行事の広告を掲載しました。

掲載された新聞広告



同時に、各学部・学科の一期生に対し、実行委員長・牟田泰三の名で招待状を郵送しています。大学のホームページや大学祭パンフレットにも実施内容を掲載しました。さらに、各学部・学科の先生方に卒業生へ直接連絡して頂きました。同窓会にもご協力頂きまして、各学部・学科の同窓会連絡網によって口コミで周知して頂きました。このように、卒業生の皆さんへのこの行事の周知徹底には、実行委員会としては非常に気を使いました。実行委員会としては、できる限りの努力をしていますが、それでも第一回ということで、参加者数が少ないのではという懸念もありました。いざ蓋を開けてみますと約300名の卒業生の皆さんが参加されました。参考までに、参加人数を学部別に纏めると、次のようになります。

経済学部	82名
人間文化学部	19名
工学部	68名
生命工学部	66名
薬学部	50名

人間文化学部は、卒業生を出してからまだそれほど間がないことを考えますと、かなりよく来てくれたと思います。その他の学部については、第一回目としては予想外の参加者数だったと思います。記念式典には参加せずに、出身学部・学科の大学祭行事の方に、参加されていた卒業生の方も大勢いるとの報告も受けています。多くの卒業生の皆さんが母校の福山大学に帰ってくれました。お忙しい中、多数の卒業生に参加して頂き、本当にありがとうございます。記念式典の司会進行役も本学経済学部の卒業生で、RCCのラジオ放送などで活躍されています、フリーの女性アナウンサー・吉岡麻衣さんをお願いしました。また、記念式典の中でミニコンサートを催すことにしましたが、演奏を

学友会吹奏楽部の皆さんにお願いしました。さらに、目玉となる講演会に関しましても、本学客員教授の高橋智隆先生に依頼することに実行委員会で決定しました。全ての行事を、福山大学の関係者で実施することにしました。



会場の様子

記念式典の状況を、以下に報告します。記念式典は、10時30分から大学会館で開催されました。実行委員長として、私が開会宣言した後、全員で「福山大学の歌」を斉唱しました。その後、学長として、私が挨拶をさせて頂きました。ご参加頂いた卒業生へ、歓迎とホームカミングデーの意義を述べました。さらに、今まで進めてきた教育改革などの取り組みを紹介し、将来に向けて福山大学のより一層の発展のためには、卒業生の皆さんにもご協力頂きたいと述べました。



牟田学長の挨拶

次いで、宮地尚理理事長にご挨拶をお願いしました。福山大学は、今では西日本有数の規模の大学になり、卒業生も3万人ほどになっています。今後も三蔵五訓の教育理念を守り、実社会で役立つ人材を育成していきたいと述べられています。



宮地理事長の挨拶

主催者側としての学長と理事長の挨拶を受けて、福山大学全学同窓会連合会の三谷康夫会長が、卒業生を代表して、ホームカミングデーを開催したことへの感謝の意を述べられました。「卒業生の皆さん、オール福山大学ファミリーの一員として福山大学と共に頑張りましょう」という応援の言葉を頂戴しました。



三谷同窓会長の挨拶

引き続き、学友会吹奏楽部のミニコンサートが行われました。吹奏学部は、コンクールなどで表彰されており、日ごろから熱心に練習に取り組んでいます。部員である在校生が、ホームカミングデーで里帰りをした卒業生の先輩方に見事な演奏を披露してくれました。演奏が素晴らしかったことは言うまでもありませんが、卒業生の皆さんにとって、後輩が活躍している姿を垣間見ることができ、その面からも、大変有意義であったと思います。吹奏学部の皆さん、ありがとうございました。



吹奏学部によるミニコンサート

午前中に開催されるホームカミングデー第一部の最後に、今年度から本学工学部電子・ロボット工学科の客員教授に就任されたロボットクリエイターの高橋智隆氏による講演会を開催しました。「ロボットの時代を創る！」をテーマに約1時間の講演をして頂きました。高橋客員教授は、ロボカップ世界選手権大会で5年連続優勝されており、アメリカサイエンス誌で「未来を変える

33人」などに選ばれています。福山大学では今年度、高橋客員教授製作のヒューマノイドロボット「クロイノ」君を、イメージキャラクターとしてCMなどPR活動に起用させて頂いています。高橋客員教授はパナソニックの乾電池のCMでもよく知られており、グランドキャニオンで530mの高さをよじ登った「エボルタ」君も「クロイノ」君と共に登場しました。講演は大変好評で、講演終了後も多くの方々が残っておられ、登場したロボットの写真を撮ったり、高橋客員教授との間で話はずんでいました。



高橋客員教授による講演会

大学会館での第一部を終了した後は、午後から一時間程度のキャンパスツアーを実施しました。この企画は、西日本有数の規模の大学に成長した本学の主要施設を卒業生の皆さんに見て頂くことを目的に実施しました。このキャンパスツアーと並行して経済学部、人間文化学部、工学部、生命工学部、薬学部に分かれて、それぞれ懇談会などの学部別行事を行い、卒業生の皆さんには有意義な時間を過ごして頂きました。例えば、経済学部では、ゼミ単位での旧交を温めることをメインとした学部行事を行っています。工学部では、キャンパスツアーの終了後に、工学部長や各学科の教員を紹介しています。また、卒業生を代表して、工学部同窓会長以下、各学科の同窓会長にご挨拶を頂き、和やかなひと時を共有して頂きました。その他の人間文化学部、生命工学部、薬学部では、それぞれ工夫を凝らした学部行事を開催し、教員と卒業生の交流を図っています。

以上のように、第1回ホームカミングデーを無事終了することができました。実施後に最後の実行委員会を開いて、今年度の総括と次回に向けての改善点などを議論しました。その結果は以下の通りです。卒業生に対して実施したアンケート結果と実行委員の意見を総括して、次のような結果が得

られています。

- ①ホームカミングデーの開催日は大学祭中がベストと考えられます。
- ②終日を用いたホームカミングデーの行事は、卒業生にとって拘束時間が長すぎるようです。
- ③遠くは名古屋や関西、四国などを含め広島県外から遠路にもかかわらず卒業生が参加してくれました。実施日時として、例えば、土曜日の午後から半日間でこの行事を開催することも考えられます。
- ④午前中の記念式典は概ね好評でした。特に、高橋客員教授による講演や吹奏楽部によるミニコンサートは好評でした。
- ⑤大学祭の出店で昼食などにご利用頂けるように、500円の「お楽しみ券」を配布しましたが、大変好評でした。
- ⑥お世話になった先生方にお目にかかることができ、大変有意義な一日を過ごすことができました。ホームカミングデーを続けて欲しいという卒業生が殆どでした。
- ⑦昔なつかしい学食で食事をしたかったという意見もあり、来年度に向けての課題となりました。

以上の結果をもとに、次のホームカミングデーでは、より有意義なものとするよう努力したいと考えています。

以上のように、本学で初めてホームカミングデーを開催することができました。開催に当たり、ご尽力頂きました実行委員会のメンバーならびにご協力頂きました教職員の皆さんに厚く御礼申し上げます。ご多忙中にもかかわらず、終日を通して多くの卒業生の皆様のご来訪を賜りました。最後までお付き合い頂いた卒業生の方も多く、皆さんとの旧交を温めることができました。都合により参加できなかった卒業生の方々の近況を知ることができ、大変心温まる行事となりました。このような形で、第1回のホームカミングデーを成功裏に終えることができました。来年度、第2回ホームカミングデーを是非開催したいと思います。都合により今回参加されていない卒業生の皆さまにもお誘いあわせ頂き、より多くの卒業生の皆さんにお目にかかりたいと存じます。本当にありがとうございました。

第35回 三蔵祭

三蔵祭を終えて



今年で35回目を迎えた三蔵祭は『志～一步前へ～』というテーマを掲げ、三蔵祭運営委員会一同、最高の三蔵祭となるように全力を尽くしました。

各学部・学科による展示、28のサークルや研究室による模擬店、各サークルによるイベント、今年開催された第1回ホームカミングデーなど多くの人達のご協力により、例年にも増して充実した三蔵祭になったと思います。

特別企画では『Peaky SALT』『Li'l B』によるライブを行い、さらに盛り上げることができました。

今年の三蔵祭は学内外から約6,000人の来場者があり、お客様の満足された様子を見ることができ、三蔵祭運営委員会一同も最高の三蔵祭になったことを大変嬉しく思っています。三蔵祭当日まで諦めず頑張ってきて本当

によかったと思います。学内外の協力者やご来場いただいたお客様に心よりお礼申し上げます。

言葉では簡単に言える「志」。当日までそれを持ち続けることは大変でした。しかし、お客様からの「よかった」の一言で今までの苦勞が報われる気持ちでした。今後も「よかった」と思っていたらいいよう、三蔵祭運営委員会一同さらに努力していこうと思います。本当にありがとうございました。

第35回三蔵祭運営委員会 委員長
人間文化学部 人間文化学科
3年 上久保 聡

第35回三蔵祭運営委員会 副委員長
生命工学部 生物工学科
3年 濱田 康裕

経済学部 クイズで学ぶ日本経済・世界経済

今年の会場は01210教室で、ちょうど1号館の中間地点となります。そのため入場者が少なくなるかもしれないと不安になりましたが、結果は大人だけでなく子供たちも多く入場して、ホッとしています。

経済学部の展示内容は、次の3つに大きく分かります。まずクイズ問題付き



会場風景

パネル展示です。入り口受付で見学者に解答シートを渡し、各ゼミが作成した簡単なクイズ問題付き解説パネルを順次見ながら解答してもらいます。その後出口前でシートを受け取り、その場で採点し、成績優秀者に粗品を進呈します。解答シートだけでは難しいものの解説パネルを見ればすぐ分かるようになっていました。

次に、2008年の備後経済論の講演内容のパネル展示です。これらを展示するとともに現在講義している2009年度の備後経済論のアナウンスを行いました。

さらに子供たちにも楽しんでもらえるように、ペーパークラフト体験コーナーやペンシルバルーンコーナーを設けました。ペーパークラフト体験コーナーには、事前に学生たちが実際に作った物を見本として置き、参加者にはそれを見ながら作ってもらいました。ペンシルバルーンコーナーでは、細長い風船を膨らませて、曲げたり折ったりしながら動物を作っていきます。特に犬、白鳥などの動物は楽しいプレゼントとなったようです。

来年も入場者が楽しんで勉強ができる企画をする予定です。

経済学科 准教授 小林 正和

人間文化学部 人間文化のこころを発信

人間文化学部では、3学科がそれぞれの特徴を活かし、趣向を凝らした企画・展示を行いました。

人間文化学科では、『人文フレンドパーク』と題して、創作劇の上映会、オススメ本や映画の紹介などの企画にクイズや輪投げを取り入れて、幅広い年齢の来場者が楽しめる会場を創り上げました。



心理学科では、心も体もイキイキと楽しめる生活を目指して、『健康フェスタ～ここから健康になろう！～』をテーマに、学生達の研究成果を発表しました。メタボリック・シンドロームなど健康問題への意識が高まる現代人…体重・体脂肪測定や血圧測定、禁煙指導などの体験コーナーは大人気だったようです。

『メディアと情報で新しい文化を創造するーみせます！ メディア情報文化学科のすべてー』をテーマに掲げたメディア情報文化学科では、学科の全てをアピールする意気込みで、バーチャル・スタジオ体験やCG・映像・音楽・パネルなどのさまざまな“メディア”と“情報”を駆使し、多くの方楽しんでいた

だきました。

また、今年は全学的な取り組みとして、初のホーム・カミングデーが開催されま

した。人間文化学部においては、卒業生・教員・在学生が絆を深め、ともにこれからの人間文化学部を考え盛り上げていこう、という趣旨のもと、学科紹介や交流会を企画しました。…が、まだまだ歴史の浅い人間文化学部。来場者数こそイマイチでしたが、この志が実を結び、たくさんの卒業生が集う日が来るに違いない、と信じています。

心理学科 助教 大西 理恵子

工学部 夢あふれる企画や展示で未来を創造

工学部では学科ごとに夢のあふれる企画・展示を行いました。

電子・ロボット工学科では「CHANGE」というテーマで、4年次生を中心に1～4年次生それぞれが企画・実施しました。写真は「エレクトリカルROBOパレード」のスナップショットで、電気自動車を先頭に手作りのロボ神輿を使ってイベントの宣伝をしているところです。写真奥側に見えるように3号館の壁面には大きな垂れ幕も下げました。その他、「ジュース早飲みアームロボ対戦」では人とロボットの協調作業によるゲーム、「ロボットふれあいコーナー」での遠隔操縦ロボットの操縦体験など、参加型のイベントも行

われました。

その他、建築・建設学科では「見る・知る・造る」というテーマで卒業作品模型の展示や工作体験がありました。「土の魅力」というコーナーでは、傾けると砂が絵を描くオブジェを親子そろって製作していました。情報工学科では「ユビキタスを体感しよう」というテーマで、計算機室を公開してCGや婦人服パチャルショップなどの紹介があり、別室では研究室の紹介もありました。機械システム工学科では「機械を楽しむ」というテーマで、自動車の展示、ロボットコンテスト、研究室紹介などが行われました。

じっくり時間をかけて見学できたり、



エレクトリカルROBOパレード

スタンプラリーなどの子供たちが楽しく参加できる企画がたくさんあったりと、多くの方に未来を想像してもらえたと思います。

電子・ロボット工学科

准教授 沖 俊任

生命工学部 生き物いっぱい！植物から動物まで楽しく体験

生命工学部では、3学科が植物に始まり動物はウミウシから人間まで幅広く生き物や食品をテーマに特色ある展示や体験コーナーを開設し、研究室発表を行いました。

生物工学科は、実験生物大集合や福山大学自然展で生きた生物に触れてもらうことでお客さんに学科のテーマである“いきもの”のちからを感じてもらいました。また、「ギネスに挑戦コーナー」では自家製お化けかぼちゃに触れる体験も開催してひととき賑わいを見せていました。

生命栄養科学科は、“福大を美味しく健康的に味わってみよう”と題して、学科で育てたトマトの収穫ツアー、トマ

トスイーツや毎年恒例のアイスクリームの試食は人気でした。また、健康チェックとして測定機器によるメタボや筋肉バランスの評価、「食育コーナー」ではカロリー当てクイズも行い楽しみなが



生命栄養科学科：体組成計で筋肉バランスチェック

ら栄養のことを紹介しました。今年は、1年生から3年生の展示、そして4年生の研究室発表など全員参加で作り上げました。

海洋生物科学科は、瀬戸内海の生き物の多様さや海の中で動物たちがどのように生活しているのかを体感できるような展示を行いました。今年は1年生が中心となって、採集した生き物の展示や解説用パネルの作成を行いました。また、「夜の水族館」では夜行性の動物の生態も見ていただき、海洋生物を身近に親しむコーナーも好評でした。

生命栄養科学科

准教授 石井 香代子

薬学部 見て作って楽しむ科学

薬学部では、毎年楽しい催し物と共に、薬学がかかわる身近な話題を取り上げた企画・発表を行っています。本年も薬理班、衛生班、学生薬局班、化学班および薬学部運営班が、計11件の催しを行いました。

薬理班は、「生活習慣病とメタボリッ



クシンドローム」をテーマに掲げ、また、衛生班では、今冬、猛威を振るうことが予想される「インフルエンザ」について、学生が中心となって調べた内容を分かりやすく発表しました。一般には省略されて「メタボ」とかわいらしく呼ばれることの多いメタボリックシンドロームが、実は非常に我々の健康にとって危険であること、また逆に、「パンデミック」という言葉が用いられることにより、恐怖さえ与えるインフルエンザに対する正しい知識の説明を行いました。学生薬局班は、薬学部内の模擬薬局において催しを行い、毎年好評であるハンドクリームの調剤体験と、お薬やサブ

リメントに関する情報を提供しました。化学班では、「見て作って楽しむ化学」をテーマとして、簡単かつ視覚的にも楽しめる化学実験を体験してもらいました。これは、一般の人にも分かりやすく、敬遠されがちな化学のイメージを少しは変えることができたのではないかと思います。薬学部運営班は、「ウグイスパウダーの体験」、「紫雲膏の調製」、「身体測定」、「ゲーム」等の企画に加え、「薬事法改正」、「麻薬」という、最近のトピックスについて発表を行いました。これらの催しはいずれも学生が中心となって行ったもので、訪れた多くの方々にも好評で、薬学部を身近なものとして感じてもらえたことと思います。

薬学部 教授 大橋 一慶

地域連携活動

産業交流展in福山2009・じばさんフェア2009

産業交流展in福山2009で「びんご創造力・福山大学」展示

「産業交流展in福山2009」が、福山商工会議所と(学)福山大学の主催で、10月9日(金)・10日(土)の2日間に渡って、広島県立ふくやま産業交流館(ビッグ・ローズ)で開催されました。目的は、備後地域の企業が持つ新製品新技術新サービスや、大学他研究機関の研究成果等を一堂に集め、販路開拓のための商談や異なる分野との情報交換、さらには新たな分野への取り組み、優秀な人材の定着などのきっかけづくりの場を提供することで、2日間の来場者は3,100名でした。



福山大学・福山平成大学としては、26ブース、展示場の35%を占めるスペースで、学科、研究センター、大学発ベンチャー企業の教育・研究成果を展示しました。各展示担当者は、企業や社会に対してシーズの提供をしようという思いで工夫していました。たとえば、看護学科では、車椅子の各部分の問題点をあげ車椅子の開発企業への問題



提起をしたり、健康スポーツ学科では開発した用具を展示したり、心理学科では、青色・白色複合LEDによる鎮静作用を防犯に活かす社会的な試みを提案したりしていました。電子・ロボット工学科は、身近な生活をサポートするロボット以外に、レーザーで液を流動する技術、生命栄養科学科は、食品工学の関連としてバイオマスの利用を展示するなど、新学科のユニークなシーズも紹介しました。また、センター、研究所、ベンチャー企業の展示は、当然のことながら、企業との関連が深い内容でした。構造・材料開発研究センターへは、耐震構造材料を実際に使ってみようという業者の方の熱心なアプローチがありました。グリーンサイエンス研究センターのブースへは、企業から還元水の効能の測定の相談があったそうです。

協力学生は、来訪者に積極的に展示



品を試してもらったり、説明したり、明るくにこやかな対応が印象に残りました。

「産業交流展」は、昨年までの「びんご産業市場・じばさんフェア」から会場産品や食べ物の販売を含んでいる「じばさんフェア」を切り離し「びんご産業市場」を独立させたものです。新聞一般紙5社、経済誌2社が、福山大学のロボットや電気自動車の写真も載せながら、技術情報交換の場として産業交流展を評価していました。

以上、今回の福山大学の技術を展示して企業との交流をはかる試みは、一応の成果が得られましたが、今後、産学連携の取り組みとして、どのように参加していくかについては、さらに検討する必要があります。

社会連携センター産学連携部長

生命栄養科学科 教授 山本 英二

じばさんフェア2009でも「びんご創造力・福山大学」

「じばさんフェア2009」が11月14日(土)・15日(日)の2日間(財)備後地域地場産業振興センターの主催により広島県立ふくやま産業交流館(ビッグ・ローズ)で開催されました。福山大学は、福山平成大学とともに1ブースずつ出展し、「びんご創造力・福山大学」を看板に、教育研究活動、社会連携事業、大学入試に関する説明を多くの一般の方を対象に行いました。

じばさんフェアの目的は、一般消費者に地元の産業・ものづくりを理解してもらい、地域企業の販路拡大をはか

ることであり、展示だけでなく、ものづくり体験、実演コーナー、販売コーナー、アトラクション(福山大学三蔵太鼓、福山平成大学吹奏楽など好評)ありの堅苦しさのない雰囲気で行われ、来場者は2日間で11,500名でした。

教育・研究機関の展示は4機関だけでしたが、福山大学は、キャンパスの航空写真、大学紀要、年報、社会連携研究推進センターの公開事業、入試願書などの展示を行うとともに、大学の規模の大きさと教育・研究内容で、来訪者の興味をひくことができました。



社会連携センター産学連携部長

生命栄養科学科 教授 山本 英二

地域連携活動

福山大学社会連携研究推進センターの活動

福山大学発！リレー講座

福山大学社会連携センターでは、去る6月から毎月のペースで「福山大学発！リレー講座」を社会連携研究推進センター（宮地茂記念館）で開催しています。社会連携センターは、産学・地域・高大連携等を通じて社会の振興に貢献するよう4つの部門で構成され、「リレー講座」は、そのひとつである地域連携部が実施しています。

福山大学は備後に根ざした日本有数の大学として、地域に役立つ国際性をもった人材の育成を図るとともに、研究成果を地域へ還元することをコ

ンセプトとしています。このため「リレー講座」は、大学が有する資源を活用しつつ、地域社会に貢献することを目的として、定期的実施しているものです。

「リレー講座」は、毎月、社会連携研究推進センターで実施しています。講師は本学教員を基本とし、経済学部、人間文化学部、薬学部など各分野専門の方にお越し、多彩な顔ぶれとなっています。講座は、関係者だけでなく広く一般市民を対象としていることから、できるだけ社会的に関心のある内容としています。第1回は衆議院の解散が予想

される中で、政権交代に多くの関心が高まっていた時期にあり、「最近の政治」というテーマでした。その後も「中国経済から日本経済を読む」、「最近の心の問題」など時宜を得たテーマを続けています。このため「リレー講座」は、12月までに7回の開催でありましたが、平日夜間の開催にもかかわらず毎回100～150人の市民が熱心に聴講されています。また参加者の中には「身近なテーマで気楽に聴講できる」、「毎回楽しみに参加しており、今後も続けて欲しい」などの評価をいただいています。

次回1月のリレー講座は、経済学部妹尾正毅客員教授（元駐ノルウェー大使）が「変わる世界と日本の選択」、2月は工学部 南宏一教授が「迫りくる地震に備える」と題して分かり易く講演されるので皆様のご来場をお待ちしています。ご期待下さい。

社会連携センター 地域連携部長
経済学部 准教授 平田 宏二



第1回リレー講座の風景

人間文化学部 文化フォーラム特別企画

宮沢賢治学会福山セミナー2009開催

—読んで語って 賢治と鱒二—
11月21日・22日
社会連携センター

宮沢賢治学会では、毎年地方の研究者が企画し、学会が支援する「地方セミナー」を実施しています。「福山セミナー」は7年ぶりの開催で、今回は、本学人間文化学科教授青木（学会員）が発起人です。青木が社会連携推進事業のPJ T5「地域の文化再発見」において井伏鱒二の文学に描かれた地域文化を探究する内に、同時代の作家宮沢

賢治との共通性に気付いたことが発端です。両作家と地域文化との関係を検証するために企画しました。

一日目は、宮沢賢治晩年の文語詩と井伏鱒二の「在所もの」との比較を試みる本邦初のシンポジウムで、学会の重鎮入沢康夫氏と前ふくやま文学館館長磯貝英夫氏の基調講演、文語詩研究の第一人者島田隆輔氏（松江工業高等学校教諭）と青木の研究発表を行いました。二日目は、福山市内で朗読活動を続ける藤井康治氏の朗読で両作家の作品を読み比べるとともに、野田祐子さん（戸手高等学校教諭）の箏の演奏による賢治作詞・作曲の「星めぐりの歌」などを楽しみました。午後は、井伏鱒二の生家と文学の舞台を訪ねるバスツアーに80名が参加、スクールバス2台でまわりました。

両日の参加者延べ250名余り、全国からの会員の他、地域の文学愛好者が集いました。参加者からは、盛りだく



受付の手伝いをする学生たち

さんの充実したセミナーであったとの感想を複数得ました。ミュージアム花井伏家、井伏鱒二の文学愛好会「在所の会」の多大な協力に感謝の意を表します。また、社会連携センターの機能が十分に発揮され、会の運営は誠に快適でした。会の運営に縁の下での力持ちとして活躍したのは人間文化学科の学生たちで、延べ50名余りの学生がスタッフとして実によく働いてくれました。これも学会関係者から大変感謝されましたことを報告いたします。

人間文化学科 教授 青木 美保



講演をする入沢康夫氏

尾道市「海を学ぶエコツアー」について

海洋生物科学科では、地域貢献の一環として尾道市の環境学習事業に協力しています。8月27日(木)には、環境学習会「海を学ぶエコツアー」が、本学因島キャンパスを中心としたエリアで開催され、尾道市内の小学生約40名とその保護者が参加しました。ツアーは、尾道市環境政策課と環境カウンセラー、本学科教員が中心となって企画し、自然や生物に触れ合い、海の環境を学ぶ機会をこれからの時代を担う子供に提供するために行いました。

参加者は、因島大浜町の区長会長さんから浜の移り変わりについての話を聞いたあと、本学教員の引率で近くの浜で生き物の観察を行いました。子

供たちは夢中になって砂を掘ったり石をめくったりして、たくさんのエビやカニ、小魚、貝などを見つけて歓声を上げていました。その後、環境アドバイザーの指導で海岸のごみを集めて分別し、海岸が多くのごみで汚れていることを知り、海の環境と生き物を守るには一人ひとりの意識が大切であることを学びました。

昼食をはさんで午後は、浜で見つけた生き物たちの関わりと干潟の浄化機能について本学教員が説明し、その後浜で集めたビーチグラス(波に揉まれて角の取れたガラス片)でストラップ作りを行いました。

参加した子供たちは、自然環境とそ



見つけた生き物を観察する参加者

こに暮らす生き物の大切さを実感した様子でした。このような取り組みを通じて生物や環境に関心を持つ子供が増えることを期待します。

海洋生物科学科

准教授 北口 博隆

第4回「環境まつりinおのみち」に出展

10月18日(日)、尾道駅前の港湾緑地帯で行われた第4回「環境まつりinおのみち」に、生命工学部海洋生物科学科として「藻場と干潟から海の環境を考える」というテーマで参加しました。秋晴れの中会場に並んだテントでは、温暖化、エネルギー、ゴミ処理など環境に関わる内容でさまざまな団体による展示が行われ、体験コーナーやプレゼントもあり楽しく立ち寄ることができるものでした。本学科では、瀬戸内海の保全や生物資源の有効利用に貢献しようと、藻場の生物相の調査や、アサリ資源再生などの研究活動を行っており、環境まつりのような機会を通して地域にも成果を還元していき



学生が子供たちにもわかりやすく説明

いと考えています。今回は本学科の山岸と北口が担当し、幼魚などの生活場となる藻場の役割や、海水を浄化する働きをもつ生物が多い干潟の働きをポスターで紹介するとともに、色とり

どりの海藻押し葉や、生きたアサリが濁った水をきれいにする様子をみてもらいました。簡単なクイズに答えると手作りの海藻しおりやアサリの貝殻ストラップをプレゼントするという企画も功を奏し、子供連れのご家族をはじめ多くの方々に立ち寄っていただきました。アサリを入れた水がきれいになっている様子に驚かれる方や、「勉強になりました、このような研究を一生懸命やってください」と温かい声をかけてくださった方もいらっしゃいました。一緒に参加した大学院生と4年次生も積極的に説明し、地域の方々と交流することができ、充実した1日となりました。

海洋生物科学科 講師 山岸 幸正

浅野温子 朗読会®

「日本神話への誘い®」福山公演

ボランティア学生がお手伝い



女優・浅野温子は現代の代表的な女優の一人ですが、テレビドラマ等に出演する傍ら、全国で古事記を脚色した一人語りの舞台を展開しています。10月3日(土)には、その語り舞台公演が福山城公園で行われました。演目は、「イザナミの死」にまつわるイザナギとイザナミの愛憎と世界の分裂の物語、「オオナムチ」に対する兄達の嫉妬とその克服の物語です。折しも、満月の煌々たる光のもとで幻想的な語りが音楽の生演奏とともに繰り広げられ、古代人の愛憎が現代に蘇る不思議な一瞬が現出しました。

このたびは、この企画を誘致したミュージアム花(福山市西深津町)からの要請で、学生がスタッフとして参



加し、会場設営、受付のお手伝いをしました。このような文化的、芸術的な行事の運営に携わることができ、学生にとって貴重な機会となりました。人間文化学科は、文化を通して社会に参加する人材を育成しています。今後ともこのような実践的な活動の機会を得ていきたいと思っています。

人間文化学科 教授 青木 美保

福山大学・びんご地域中学高等学校連携
理科教育支援事業

Science Lab (サイエンスラボ)

理科教育支援事業“Science Lab”は、中高生の理科離れを食い止めるとともに、欧米に比べて立ち遅れの目立つ科学技術領域への女性の進出を図ることを目的として、本学の理系関連学部・学科(工学部、生命工学部、薬学部、心理学科)連携のもとで実施されています。今年度は対象校を福山市周辺にも広げ、さらに地元企業の協力も得て、地域密着を推し進めて展開しています。理科離れが問題となっている背景として、実験を通して理科を学習する機会が少ないことがあげられます。そこで、“Science Lab”では、理科の楽しさ面白さ、神秘さを体感できる実験型理科



平成21年度 Science Lab			
第1回 6月14日(日)	● Science Lab Opening Ceremony ● 施設見学 ・グリーンサイエンス研究センター，構造・材料開発研究センターの見学 ・大学図書館の見学と利用		
	● 実験型理科学習Ⅰ	中学生	高校生
	Aシリーズ	・化学実験「材料の化学」	・薬とサプリメント
	Sシリーズ	・アサリの浄化能力を調べる	・庭園をデザインする
	Rシリーズ	・薬剤師の仕事を体験してみよう	・折り目から生まれる強さとデザイン
	Cシリーズ	・レーザと光の不思議	
第2回 8月7日(金)	● 実験型理科学習Ⅱ	中学生	高校生
	Aシリーズ	・抗原抗体反応で血液型を調べる	・遺伝子の本態であるDNAの分離にトライ
	Sシリーズ	・漢方薬『葛根湯』をつくる	・DNA鑑定実習
	Rシリーズ	・おいしいチョコレート作り	・危険な薬
	Cシリーズ	・はっぱの科学分析	
第3回 11月14日(土)	● 実験型理科学習Ⅲ	中学生	高校生
	Aシリーズ	・植物の食品への利用	・鋼の熱処理と微細組織
	Sシリーズ	・ミルク・クイーンの美味しさにせまる	・かぜ薬をつくってみよう！
	Rシリーズ	・マウスの解剖で体の中をみよう	・酵素を使って食品の糖度を測定しよう
	Cシリーズ	・海洋動物の形態観察	
第4回 2月21日(日)	● 実験型理科学習Ⅳ	中学生	高校生
	Aシリーズ	・生活と音	・解熱鎮痛剤って何？
	Sシリーズ	・コンクリートのふしぎ	・こころを科学する～心理実験への招待～
	Rシリーズ	・パソコンでパズルを解く！	・化学実験「液体窒素・ドライアイスの性質・利用」
	Cシリーズ	・パベルの塔はなぜ潰れたか？	
● Science Lab Cafe Meeting ・科学技術分野で働く先輩の話を聞いてみよう!!			
● Science Lab Closing Ceremony ・クイズ大会			

学習を中心に取り組んでいます。現在、第3回までが終了しましたが、延べ参加生徒数は336名(女子225名、男子111名)です。第3回では、丸善製薬株式会社とJFEスチール株式会社による実験型理科学習が行われました。また、9月には福山町の星女子中学高等学校の学園祭において、サイエンスラボ参加生徒に

よる学習発表の支援を行いました。今後の予定として、第4回では、実験型理科学習に加えて、科学技術分野で活躍している卒業生などによる講演や交流会が計画されています。

理科教育支援事業“Science Lab”
取り纏め責任者 杉原 成美

スピーチコンテスト

10月24日(土)、福山市教育委員会、尾道市教育委員会、竹原市教育委員会、府中市教育委員会、ふくやま国際交流協会、福山大学留学生教育振興協会の後援を得て、2009年度広島県東部高校

生英語スピーチコンテストが開催され、11名の地元高校生が「私の主張」、「夢」、「私の大切なもの」などから選んだテーマで競い合いました。いずれも日ごろの訓練と周到な準備をうかがわせる熱弁であり甲乙つけがたいものでしたが、大賞には福山町の星高等学校3

年生藤井佑香さんが選ばれ、副賞としてカリフォルニア大学リバーサイド校(UCR)から1か月間の短期留学奨学金、また、留学生教育振興協会からは旅費の一部が授与されました。他に、準大賞に福山誠之館高等学校の小林真理さん、優秀賞に府中東高等学校の三好大暉君、審査員特別賞に上下高等学校の陶亮君が選ばれました。

翌25日(日)には三蔵祭スピーチコンテストが、日本語の部(留学生)と英語の部(非英語圏学生)の2部門に分かれて開催され、11名の福大生が参加しました。語学力だけでなく若者らしい新鮮な感覚で聴衆に感銘を与えたスピーチが多い中で、日本語の部では工学部の張暁崢君、英語の部では経済学部の呉嘉豪君が最優秀賞に選ばれた他、経済学部の張蘭さん(優秀賞)、陳婷婷さん(奨励賞)、彭琳さん(委員長特別賞)(以上日本語)、張蘭さん(優秀賞)、植田恭介君(奨励賞)(以上英語)が受賞しました。

国際センター 国際交流部長
富士 彰夫



第2回「友だちにすすめたい本」コンクール受賞者決定

人間文化学科では、若い人たちにどんな本を読んでもらいたいという思いを込めて、昨年度から高校生を対象とした「友だちにすすめたい本」コンクールを企画しています。たくさんの友だ

ちに知ってもらいたい宝物のような本を、400字の文字数で紹介するコンクールです。

2年目のジンクスで参加者が激減するのでは？と教員たちが不安を感じながら、今年度も25の高校から1774篇という昨年度以上の応募作品を得ることができました。そして、文字通り嬉しい悲鳴を上げながら厳正な審査を進め、このほど学校賞2校と最優秀賞1篇・優秀賞5篇・佳作賞20篇・学校別審査員賞33篇を選出しました。

学校賞には、応募数の多さと取り上げた本の多様さが評価され、広島

県立総合技術高等学校と広島県立福山誠之館高等学校が選ばれました。また、石川拓治著『奇跡のリンゴ』（幻冬舎）を取り上げた貝原圭紀さん（広島県立福山誠之館高等学校1年生）の作品「私たちが忘れてしまっているもの」が、みごと最優秀賞に輝きました。作品をご応募頂いた高校生の皆さん、ご指導頂いた先生方には、心から感謝申し上げます。

なお、年明けには昨年度同様に優秀作品集の刊行も予定されています。楽しみにお待ち下さい。また、詳しい受賞結果については、ホームページからも閲覧することができます。

<http://www.fuhc.fukuyama-u.ac.jp/human/hc/>

人間文化学科 准教授 引野 亨輔



第4回高校生CMコンテスト —メディア情報文化学科—

メディア情報文化学科では、「高校生CMコンテスト」を開催しました。テーマは「全国にアピールしよう！あなたのまちの魅力」。今年は「映像作品の部」、「企画コンテの部」、「広告コピーの部」に総数139作品の応募をいただきました。

審査員に(株)サン・アドの藤森益弘(本学客員教授)、映像作家の小林充志氏を迎え、「映像作品の部」は中尾一輝さん他2名(兵庫県立高砂高等学校)の「にくてん」が、「企画コンテの部」は瀧元菜緒さん(岡山県立倉敷鷺羽高等学校)の「溢れる岡山」が、広告コピーの部は小泉達也さん(大阪市立扇町総合高等学校)の「〜スグ近くの修学旅行〜コリアタウン」がそれぞれグランプリとなりました。

表彰式は三蔵祭開催中の10月24日(土)に福山大学で行い、受賞者に賞状やト

ロフィー、副賞を授与しました。

ウェブサイトで「映像作品の部」の受賞作品を公開しているので、是非ご覧

ください。

<http://www.fuhc.fukuyama-u.ac.jp/human/media/cm2009/>

メディア情報文化学科

講師 内垣戸 貴之



「第4回高校生CMコンテスト」の表彰式

第8回ロボットコンテスト —工学部—



今年で8回目となるロボットコンテストは、ロボットがより多くのピンポン玉を、所定の箱に入れるというもので、ピンポン玉を入れる箱の場所によって得点が異なり、決められた時間内で得点を競っていく競技です。今年のロボットコンテストには、中学校6チーム、高等学校2チーム、一般1チームの9チーム43名の参加がありました。一般チームは、昨年まで中学校のチームとして参加してくれていた生徒が卒業後に一般チームとして参

加してくれました。

今年度のロボットコンテストに優勝したチームは、昨年度に続き今年度も参加してくれた英数学館中学校で、今年度は昨年を上回る高得点で優勝しました。

参加した生徒たちから、「来年度のロボットコンテストに向けて今日から新しいロボットを製作する。」「来年度のロボットコンテストの案内を早めお願いします。」などの言葉を頂き次年度につながる大変有意義なロボットコンテストとなりました。

機械システム工学科

講師 小林 正明

第32回福山大学薬学部 卒後教育研修会

10月31日(土)、福山大学社会連携研究推進センター(宮地茂記念館)のマルチメディアルームで、本学薬学部金尾義治教授を講師に、「治療薬物モニタリング(TDM)の基礎と実践」と題して研修会を開催しました。当施設のパソコンが50台であることから、募集定員を40名に設定しておりましたが43名の受講者があり、TDMに対する関心の高さが窺えました。TDMは、血中濃度や治療効果をモニタリングしながら、それぞれの患者に最適な薬物投与計画を立案・遂行するために行われ、医療の現場で必要不可欠であるはずですが、背景に難解な理論と計算があるため敬遠されがちなのが現状です。金尾教授は、本学薬学部創設期、まだパソコンもソ

フトも不十分な頃からご自身で工夫されてTDMシミュレーション教育を続けられ、この分野の草分けといっても過言ではありません。今回は、これまでの金尾教授の経験に基づき、最新のバンコマイシンのTDMソフトを通して分かりやすく講演されました。具体的な演習の前に、TDMの基礎となる薬物動態学の簡潔で分かりやすい説明があり、実践的な採血や血中濃度測定法の紹介に続いて、TDM解析の個別演習を行いました。パソコンは1人1台ずつ使用でき、



バンコマイシンのTDMソフトの存在を知っていても使い方が分からなくてあきらめかけていた参加者の方からも、分かりやすかったとの評価を得ることができました。

薬学部

教授 藤岡 晴人、西尾 廣昭

実務実習事前学習への取り組み

平成18年度より、薬学部は4年制から6年制となりました。4年制と最も大きく異なる点は、実務実習事前学習(以下、事前学習)、薬学共用試験および病院・薬局実務実習が必須化されたことです。その中で、今回、4年次後期に初めて実施した2.5カ月間の事前学習への取り組みを紹介します。

さて、この事前学習は文部科学省が作成した「実務実習モデルコアカリキュラム(122コマ)」に準じて実施することが求められています。本学では効率のかつ効果的に学習が遂行できるよう、モデルコアカリキュラムを若干改良した福山大学方略を作成して実施しました(学生1人当たりの学習コマ数は112



調剤実地試験の風景

コマ、月~木実施、実習期間は2.5カ月間)。これは146名の4年次生を2~4つのグループに分け、各グループが並行して異なる学習を実施するというものです。担当教員数は増えるものの充実した少人数教育が可能となります。なお、事前学習の一部の内容は4年次前期までに数

10コマ実施しているため総コマ数は問題ありません。この福山大学方略やスケジュールは本学薬学部ホームページにもアップしていますのでご参照下さい。非常に過密なスケジュールですが、薬学部全教員が一丸となって事前学習を推進し、全方略を無事完結することができました。

本年度は大学会館、31号館、10号館にて事前学習を実施しましたが、来年度は新館(34号館)で実施する予定です。本年度の経験を生かして方略、スケジュールを改善し、来年度はさらに充実した事前学習が実施できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

薬学部 准教授 佐藤 英治

企業見学 タカオ株式会社で遊具の制作過程を研修

人間文化学科では、文化を幅広く学ぶとともに、文化の社会的活用をめざして実践的な活動を行っています。その中で昨年度から力を入れているのは、地元の企業での実地研修です。特に文化的教養がものづくりの現場でどのよ



うに活かされているのかを実地に学び、文化系学生の職場での働き方のイメージを養成します。

タカオ株式会社は、大型遊具の制作で実績を上げ、全国的に名を知られる企業です。今回はタカオ株式会社において遊具の制作過程と遊具のコンセプト作りの実態を、担当者の方から直接にお聞きすることができました。遊具制作のコンセプト立ち上げには、地域の伝統文化を始め、文化的教養が必要であり、そこから遊具制作の理念が構成されていくことを知りました。そこから企画書の作成に至る作業分担のあり方、また、設計図の作成、設計図



をもとにした工場の作業工程など、一連の遊具制作過程を見学しました。

夢のある地元企業に学生たちも興味津々で、20名余りの学生が参加しました。この活動報告は「備後産業交流展」で行いました。これをもとに、人間文化学科では、「遊びの研究」を開始し、新しい遊びの提案ができればと考えています。

人間文化学科 教授 青木 美保

「日本応用糖質科学会学会賞」を受賞して 生命工学部 井ノ内 直良 教授

今年の9月16日(水)から3日間弘前大学で開催された日本応用糖質科学会平成21年度大会において、学会賞を受賞しました。受賞タイトルは「米を中心とする穀物胚乳澱粉の構造と物性に関する研究」です。この学会は1952年に澱粉工業学会として設立され、その後1972年には日本澱粉学会、1993年には現在の学会名に改称され、今年第58回大会が開催されました。この学会は発足当初から産業界との連携を重視し、産官学相互の研究協力からわが国の糖質関連産業の発展に貢献してきました。現在、会員数1,100名程の学会です。

実はこの学会では、本学は大変有名な存在で、4人もの歴代教員が学会賞を受賞しています(小巻利章教授、不破英次教授、廣海啓太郎教授、山本武彦教授、受賞順、いずれも故人)。特に不破教授と小巻教授は、ともに学会賞のさらに上の二國賞も受賞されています。また1993年と2001年には本学で大会が開催され、いずれも300名以上の参加者があり、2001年度大会では生物工学科の福井作蔵教授と松浦史登教授に特別講演をして頂きました。

私は平成元年4月、本学工学部に開設された食品工学科に講師として赴任しました。その年にちょうどスタートした農林水産省の米に関する総合研究プロジェクト(通称、スーパーライス計

画)に食品工学科の初代学科長の不破教授(私の大学院時代の指導教授でもあり、私の恩師。後の本学工学部長)とともに参画し、海外の米試料に関する県立広島大学との共同研究なども含め、この20年間行ってきた米澱粉研究の集大成に対して、今回受賞することができました。

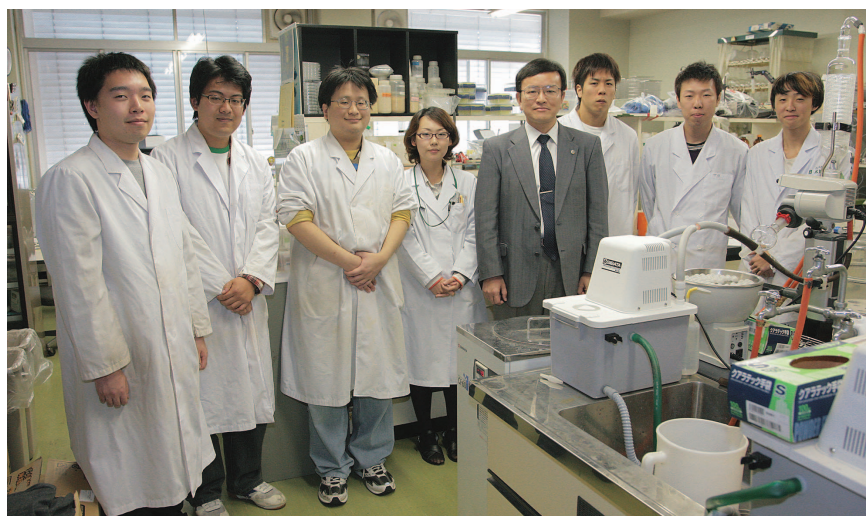
私は1994年から本学会の中国・四国支部の常任幹事として、当時の小巻支部長とともに支部運営に参加させていただき、現在もその活動を積極的に推進し、地元の糖質関連の研究者の方々と交流を深めています。1995年には「トウモロコシを中心とする穀類澱粉の構造と性質に関する研究」というテ

ーマで本学会の奨励賞をいただいております。今年からは本学会の編集副委員長として学会誌編集にも携わっています。2004年からは広島県米粉利用推進連絡協議会の会長として、米粉パンなどの米粉の新しい用途の普及活動にも参画し、微力ながら米の需要拡大のお手伝いをさせて頂いております。

最後になりましたが、今回の受賞はひとえに研究室のスタッフや卒業生の頑張り、ならびに大学の皆様のご支援の賜物ですので、ここに感謝致します。そして、今後益々、教育・研究に努力して参りたいと思います。

生命工学部 生命栄養科学科

井ノ内 直良



研究室にて

日本医療薬学会 学術貢献賞 受賞 薬学部 宇野 勝次 教授

平成21年度日本医療薬学会学術貢献賞を宇野勝次教授(薬学部)が、受賞しました。受賞研究題目は『薬剤アレルギーの起因薬検出、臨床解析および発現機構に関する研究』で、長崎市のブリックホールで開催された第19回日本医療薬学会年会で受賞式は平成21年10月24日(土)、受賞講演は25日(日)に行われました。

宇野教授は30年以上病院薬剤師として勤務する傍ら、臨床上薬物治療で深刻な問題となっている薬剤アレルギーの研究に取り組み、白血球遊走試験によるアレルギー起因薬同定法の確立、

β -ラクタム系抗生剤の交差抗原性、フルオレセインのアジュバント効果、小柴胡湯の免疫活性作用、加齢による薬剤アレルギーの変化、各種薬剤のアレルゲン性、各種過敏症におけるアレルギー反応の関与および薬剤アレルギーにおけるサイトカインの関与など多くの研究テーマに取り組み、多くの成果(原著論文63報、総説30報、その他雑誌15報、著書6冊)を上げてきました。

また、宇野教授は薬剤師として唯一日本アレルギー学会代議員と日本化学療法学会評議員をなされ、専門の臨床医からも評価されています。その意味で、



今回の受賞は宇野教授に相応しい受賞であり、心からお祝いを申し上げます。

薬学部 教授 吉富 博則

サッカー部天皇杯出場について

サッカー部は「2009年度全広島サッカー選手権」において2年連続4度目の優勝を飾り、「天皇杯全日本サッカー選手権」に出場いたしました。

天皇杯1回戦は9月20日(日)に地元福山市竹ヶ端運動公園陸上競技場にて行われました。対戦相手のVファーレン長崎はJFL(日本フットボールリーグ)に所属する強豪チームで将来のJリーグ入りをめざし出場選手の多くは元Jリーガーという格上の相手でした。

昨年の天皇杯では力を出し切れずに敗れたため、今年は自分達の持ち味を十分に発揮し最後まであきらめない戦いを目標にトレーニングに励みました。素晴らしい天候に恵まれた試合当日、試合前のミーティングからウォーミングアップまでは若干堅さの見られた選手達でしたが、キックオフの瞬間しっかりとスイッチをいれ積極的にチャレ

ンジしてくれました。その結果トレーニングで準備してきた組織的な守備と積極的な攻撃を仕掛けることができ格上相手に対して十分すぎる戦いを見せることができたと思います。残念ながら残り5分を切ったところで疲れのみえた一瞬の隙をつかれ失点し0-1で敗れました。

試合後の選手達は、しっかりと戦えた満足感だけではなく、力の差を感じて敗れた悔しさの方が上回っているようで、これをバネにさらに成長してくれるものと確信しております。

なお、当日は本当にたくさんの観客の皆様に応援していただき、選手にパワーを与えてくださいました。2,018名の観客数は全国各地で行われた試合の中で2番目に多い数だそうです。

理事長先生をはじめとする大学関係者の方々、福山市民の皆様の多大なる



ご声援ありがとうございました。チーム一同感謝の気持ちでいっぱいです。

来年の天皇杯では悲願の一勝を達成したいと思っておりますので今後ともご声援よろしくお願いいたします。

サッカー部監督

経済学科 准教授 吉田 卓史

全日本学生剣道優勝大会

対戦記 ー緒戦で金沢大学に敗退ー

10月25日(日)に日本武道館にて開催されました、第57回全日本学生剣道優勝大会に出場しました。剣道を修練するものにとって憧れの日本武道館に、全国の地区予選を勝ち抜いた64大学が集い、鍛錬の成果を競いました。福山大学は、緒戦で本大会の常連、強豪の北信越連盟代表、金沢大学と対戦しました。試合は団体戦で、一試合3本勝負の7人の対抗戦形式で行われました。

先鋒の湯浅准多君(工学部3年)は試合時間5分を戦い抜きましたが、胴を決められ一本負け、続く次鋒の藤田旭君(工学部3年)も面と胴の二本をとられ負け、五将の林優希君(経済学部3年)は堂々の勝負から見事面を決めて一本勝ち、中堅の杉原壮一郎君(経済学部2年)、

続く、三将の松本宗樹君(経済学部2年)はいずれも面の一本負け、副将の石井玲司君(経済学部2年)は、二本を取られ敗退、最後の対戦となる大将戦は坂本至君(経済学部3年)が、意地を見せ、正々堂々の試合を行いました。結局、勝者数1対5(1分け)で敗退しました。

実は、大会二週間前にインフルエンザ禍で一週間全く稽古ができないという状況に見舞われました。私は、十分な調整ができなかった中で、精一杯の戦いをしてくれたと感じています。一方、学生は今回の敗退を真摯に受け止め、今年度最後の公式戦である12月の中国学生剣道新人戦に向けて、一丸となった挑戦を開始しました。彼らの潔さに



戦いすんで。西森主将(前列中央)と選手達

幸あらんことを祈っています。引き続きの応援をお願い申し上げます。

剣道部 顧問・監督

電子・ロボット工学科

教授 香川 直己

2009年度 UCR日本文化研修

本研修は姉妹校であるカリフォルニア大学リバーサイド校の学生を対象に、日本文化の紹介の場を提供するものです。第4回目となる本年度は、9月6日(日)から15日(火)までの期間で実施されました。カリフォルニアから来日した7名がこれに参加し、日本文化を見聞する機会を得ました。

研修は各学部からの講義と基礎日本語講習、並びに陶芸、華道、茶道、着付け、うどん打ち体験、禅、能舞台見学などのワークショップ、及び香川、広島平和公園、宮島、岡山への小旅行から構成されています。講義は、経済学部塚原先生、人間文化学部田中(久)先生、工学部南先生、生命工学部小谷先生、薬学部安楽先生により行われました。基礎日本語講習では、人間文化学部三浦先生、胡子

先生のご尽力をいただきました。ワークショップでは、陶芸の藤本先生、華道の垣内先生をはじめ、茶道と着付け並びにうどん打ち体験につきましては、国際ソロプチミスト福山並びに福山松永ライオンズクラブの皆様方にご協力をいただきました。また、これらの研修科目には、本学の学生がランゲージパートナーとして多数参加しました。始めはやや物怖じしていたランゲージパートナーたちも、そこは同じ学生同士、すぐに打ち解けて親交を深めて行きました。UCR日本文化研修ではこのように、学生間の交流を推進しているところと

研修生諸君は期間中、福山ならびに尾道地区の家庭に滞在し、日本の生活文化を満喫したところです。ホームステイに関しましては、福山大学留学生教育振興協会を中心に多大なるご尽力



2009年度UCR日本文化研修初日 讃岐うどん作りツアー(瀬戸大橋にて)

をいただきました。この場をお借りいたしまして、ご協力をいただきました皆様に御礼を申し上げます。最後に、UCR日本文化研修が今後も発展し、姉妹校との関係がより充実したものとなることを祈念いたします。

国際センター

国際交流部長 富士 彰夫

合同企業説明会を開催

新規卒者の極めて厳しい就職環境に対応し、本学では10月6日(火)に地元企業24社に参加していただき、福山大学社会連携研究推進センターで特別企画による合同企業説明会を実施しました。150名の学生が参加し、有意義な説明会となりました。厳しい景気動向や業務実績の中にありながら本学との連携を重視し、御参加いただいた企業様には大変感謝しております。

就職課



公務員講座開講中～ただいま健闘中～

経済状況が不安定な中、依然厳しい雇用状況。公務員への採用枠は増えてはいますが「この道」はさらに厳しいものです。

「公務員」への「この道」。行き止まりの道ではなく、明るい出口をめざしてみんな健闘しています。健闘しているのは受講生は勿論、公務員等対策部会の教員もそうです。別に勉強時間を設けたり、質問を受けたりしています。皆さん、食欲に活用してください。

講座は基礎講座、本講座、直前対策講座からなります。

6月から始まった講座も今や本講座に入り、個別ガイダンスでは進路や学習方法を相談し、公務員としての心構えを勉強しています。また特別クラスにより、実力もつけていってます。みんな道を切り拓いてください。

学務部 教務課

資格取得をめざして—自分の器をさらに大きく—

卒業後の進路に向けて、各種の資格を取得できるように次のような取り組みをしています。

《資格取得のための補習や課外講座》

福祉住環境コーディネーター対策講座、ITパスポート試験対策講座、自動車整備士試験対策講座、生物分類技能検定試験対策講座、潜水士免許試験対策講座等。

資格を取得した場合は関連科目の単位を認定する制度もあります。

《資格取得総合センターの設置》

経済学部には、資格取得センターを置き、資格等取得ガイダンスの企画、立案、情報収集等を行っています。

《教務課が窓口となっている検定》

○受付のみ……英語検定、簿記検定等。

○大学を受験会場としている検定……漢字検定、中国語検定、TOEIC等。

教務課で受付をしている検定は年度始めに検定日、受付期間等掲示をしています。資格を取得して自分の器をさらに大きくしてください。

学務部 教務課

2009年度公開講座終わる

福山大学と三原市中央公民館中講堂の2会場で、9月から10月にかけて、「グローバル時代を迎えた地域と私たち」という統一テーマのもとに、福山大学公開講座を次の通り実施しました。

第1話「サブプライムローンと私たち」

経済学部 教授 富士 彰夫

第2話「日中友好の架け橋—魯迅と後月郡高屋町丹生との関係—」

人間文化学部 教授 久保 卓哉

第3話「エコとエネルギーの話」

工学部 教授 栗延 俊太郎

第4話「幹細胞と再生治療—人類2000年の夢—」

生命工学部 教授 山口 泰典

第5話「恙なくお過ごしでしょうか—感染症のグローバル化—」

薬学部 教授 福長 将仁

閉講式において、5回中4回以上の出席者に、修了証書を授与しました。

それぞれの会場の申込者数、受講者数、終了者数は次の通りです。

会場	申込者	受講者	修了者
福山	163	155	94
三原	78	73	49

申込者の構成は、年齢では60歳以上、職業では主婦や無職の方が大部分を占めています。受講者アンケートによれば「よくわかった」「わかった」を合わせれば両会場とも約90%を占め概ね好評と言えます。来年度開講を希望する分野は、両会場とも昨年度同様「健康と薬」「政治と経済」が多く、「文化芸術」がこれに次いでいます。この結果を来年度講座に反映させたいと思います。

公開講座委員長 井上 矩之

学友会短信

【サッカー部】

- 4月12日～10月18日 2009年度広島県東部社会人リーグ1部 優勝
- 4月26日～11月15日 2009年度中国大学サッカーリーグ(1部) 出場
- 8月1日 第33回総理大臣杯全日本大学サッカー大会 出場
- 9月20日 第89回天皇杯全日本サッカー選手権大会 出場
- 7月4日～11月7日 Iリーグ中国2009 優勝

【陸上競技部】

- 9月11日 天皇賜杯第78回日本学生陸上競技対校選手権大会 出場 3000mSC 岡田泰平(経済3年)
- 9月23日 第41回全日本大学駅対校選手権大会 中国四国地区最終選考会 第2位
- 10月16日～18日 第32回中国四国学生陸上競技選手権大会 5000m 優勝 村田 総(建築・建設1年)

【硬式野球部】

- 9月5日～10月11日 平成21年度中国六大学野球秋季リーグ戦 第5位 ベストナイン 外野手部門 稲沢 航平(経済3年)

【軟式野球部】

- 11月16日～20日 平成21年度西日本地区学生軟式野球秋季IIリーグ戦 出場

【剣道部】

- 10月25日 第57回全日本学生剣道優勝大会 出場
- 11月3日 第2回天野杯剣道選手権大会 優勝

【ソフトテニス部】

- 8月26日～30日 平成21年度秋季中国学生ソフトテニスリーグ戦大会 出場

【バドミントン部】

- 8月5日～9日 第34回中国学生バドミントン選手権大会 出場

【ゴルフ部】

- 7月14日～15日 第33回中国四国学生ゴルフ選手権大会 出場
- 11月9日～10日 第30回中国四国学生ゴルフ新人戦 出場

【水泳部】

- 9月11日～13日 第64回国民体育大会(新潟国体) 高飛込 5位 藤井 誠也(建築・建設2年)

【ボート部】

- 9月27日～30日 第64回国民体育大会(新潟国体) 出場 北条 正人(海洋生物工3年)
- 10月16日～18日 第53回中国学生ボート選手権大会 男子シングルスカル 優勝 北条 正人(海洋生物工3年)

【弓道部】

- 10月29日～10月31日 第55回中国四国学生弓道選手権大会 女子個人 優勝 山科 美帆(海洋生物科2年)

【ボウリング部】

- 8月6日～7日 平成21年度中国四国学生ボウリング連盟選手権大会 2人チーム戦 優勝 5人チーム戦 優勝 個人総合マスターズ戦 第2位 大下 純矢(機械システム工3年)
- 9月27日～30日 第64回国民体育大会(新潟国体) 出場 大下 純矢(機械システム工3年)

【剣道同好会】

- 8月8日 第9回国際剣道親善優勝大会 団体実戦 競技 優勝 豊田 健一(海洋生物工3年)
- 8月9日 第5回世界剣道選手権大会 出場 大本 雄介(情報工4年)
- 10月10日 第43回全国学生剣道優勝大会 男子個人形競技 優勝 大本 雄介(情報工4年)

【競技ダンス同好会】

- 第64回神戸スターボール競技大会 種目 チャチャ・サンバ 優勝 大谷 亮弥(心理3年)

【YRC同好会】

- 9月20日 第16回ゲタリンピック ボランティア
- 10月25日 第7回わいわいフェスタまつながボランティア

【学友会執行部】

- 10月23日 秋季学長杯争奪競技大会
- 11月26日 冬の献血キャンペーン

学務部 学生課

[illegible]

これは、国連大学(国連の機関のひとつ、国際的学術機関)が、日本政府と国際協力機構(JICA)の資金協力を受け、本学を通じて、途上国出身の学生に資金を貸与する制度で、物価の高い日本に来了た私費留学生在が、知識や技術を身につけ、卒業後は母国、世界に貢献できる人材に育つよう、支援することを目的としています。

国際センター長 大久保 勲

◎広島県立世羅高等学校の非常勤講師として、李丹丹さん(国際経済 4年 中国)、中国語を週2時間講義。(2009年4月1日～2010年3月31日)

◎首都師範大学(中国、北京)において、広島県留学フェアに本学からブースを出展。牟田泰三学長、島敏夫国際センター留學生部副部長、趙建紅国際センター講師が出席。

◎八幡記念育英奨学会設立20周年記念懇話会に大久保勲国際センター長と共に当奨学会奨學生の安田彩乃さん(薬学 4年)、阮苑さん(国際経済 4年 中国)が出席。(6月12日)

◎アジア人財資金構想プロジェクト「高度実践留學生育成事業」3期生に斉超蘭さん(人間文化 3年 中国)、于博泓さん(情報処理工 3年 中国)、孫晶さん(情報処理工 3年 中国)3名の採用が決定し、開講式に出席。(6月27日)

◎(財)ひろしま国際センター主催の平成21年度留學生奨学金決定通知書授与式ならびに第1回奨學生交流会に牟田泰三学長、島敏夫国際センター留學生部副部長と共に奨學生王毅さん(経済 大学院 1年 中国)ら7名が出席。(7月8日)

◎第5回異文化交流外国人日本語よみかたりコンクールにおいて、朴聖雨さん(国際経済 2年 韓国)の「韓国語の由来」が準優勝。授賞者はさらに中国・四大会大第3回同コンクールへ出場。(7月26日)

◎姉妹校、上海師範大学(中国、上海)へ初の交換留學生として竹内康朗さん(経済 2年)2009年8月から半年留学。本学からも奨学金を授与。

◎松岡勇祐さん(国際経済 3年)が姉妹校カリフォルニア大学リバーサイド校へ(独)日本学生支援機構からの短期留学推進制度奨学金を得て、2009年8月から半年留学。本学からも奨学金を授与。(8月1日)

◎海外姉妹校から今年度編・転入学した留學生が国際センター主催の広島地域視察ツアーに参加し、世界遺産の宮島や原爆ドームを見学。島敏夫国際センター留學生部副部長が引率。(8月3日)

◎学術教育協定校、対外経済貿易大学(中国、北京)において、大久保勲国際センター長が「日中経済について」集中講義。(9月7日～9月11日)

◎中村宏子さん(人間文化 3年)が姉妹校カリフォルニア大学リバーサイド校へ2009年9月から2010年3月の間、(独)日本学生支援機構からの短期留学推進制度奨学金を得て、留学。本学からも奨学金を授与。

の演題でホームレスについて流暢な英語で語りかけ、大賞に輝く。副賞として、UCRから一か月の短期留学奨学金を授与。本留学学生の Muthoni Eric Muneneさん(国際経済 2年 ケニア)による母国ケニア音楽のドラマ演奏とダンス王琦さん(国際

福山大学 学報 Vol.122

お悔やみ

無漏田芳信先生のご逝去を悼んで

無漏田先生は、一昨年の夏に発病し、その後も治療を受けながら教壇に立ち熱心に学生指導を行ってきましたが、今年の6月27日に肺がんのため逝去されました。先生は、本学に赴任して今年で20年目となり、その間、広報委員長、建築学科の学科長、入試委員長等を歴任され、学科及び大学に多大なご貢

献をなさいました。研究面においても、地域医療、福祉施設、市民利用施設等の地域施設に関する多くの研究業績を残されています。6月初旬に行われた卒業研究の中間発表会では学生に対して質問や助言を行い、自宅療養中も、メール等で亡くなる直前までゼミ学生の指導を行っていました。現在、無漏

田ゼミの卒業生たちで結成された無銘会というOB組織が、先生の志を引き継ぎ、福山大学で行ってきた20年間の研究業績を集大成としてまとめようとしています。無漏田先生のご冥福をお祈り申し上げます。

建築・建設学科 学科主任 大島 秀明

「井口定男先生のご逝去を悼んで」

本学名誉教授井口定男先生が平成21年9月1日に89歳で逝去されました。先生は東京帝国大学医学部薬学科をご卒業後、昭和27年から30年間、九州大学薬学部において、誕生したばかりであった薬剤学の発展にご尽力されました。医薬品の適正使用や製剤特性の向上、ヒトにおける薬剤の代謝研究などを展開され、昭和56年に「医薬品

の薬剤学的評価研究」により日本薬学会学術賞を受賞されました。

昭和57年からは福山大学薬学部長として、新しい医療薬学教育の実践のため、モデル薬局の設置、病院薬局実習の必修化、医療機関との協力体制の構築、さらには大学院薬学研究科医療薬学専攻の新設と斬新な計画を次々と実施されていかれました。こ

のような永年の教育・研究のご功績により平成8年に勲二等瑞宝章を受章されました。

平成12年からは副学長として、また平成14年に退職された後も、理事として本学の発展に力を尽くされました。ここに先生のご遺徳を偲び、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

薬学部 教授 五郎丸 毅

入試広報室から

◆入試説明会

高校進路指導担当者を対象に、福山大学および福山平成大学の入試説明会を6月15日から19日まで、各地の12会場で開催しました。

高校からの参加者は、132校139名でした。

◆大学参観を兼ねた入試説明会

9月18日、福山大学および福山平成大学の大学参観を兼ねた入試説明会を合同開催しました。参加教員の事前希望であった両大学の施設・設備の見学後、福山市内のホテルで両大学の入試説明、質疑応答が行われました。参加者は、6府県43校59名でした。

◆進学相談会(業者主催)

業者主催の進学相談会において、本年度は広島など22都市47会場で高校生・保護者・教員、総計682名の進学相談に応じました。

◆福山大学見学会・体験入学会

毎年恒例の見学会を7月18日、9月12日、体験入学会を8月2日、8月29日に開催しました。

見学会の参加者は、7月18日は高校生213名、保護者64名、計277名、9月12日は高校生74名、保護者41名、計115名でした。体験入学会の参加者は、8月2日は高校生535名、保護者174名、計709名、8月29日は高校生230名、

保護者96名、計326名でした。

福山平成大学では、7月4日、9月12日に見学会、7月26日、8月29日に体験入学会を開催しました。見学会の参加者は、7月4日は高校生59名、保護者26名、計85名、9月12日は高校生65名、保護者18名、計83名でした。

体験入学会の参加者は、7月26日は高校生281名、保護者50名、計331名、8月29日は高校生146名、保護者48名、計194名でした。

◆高校PTA・教員・生徒の本学訪問

4月下旬から福山大学および福山平成大学への訪問は、高校12校918名でした。

後援会情報

福山大学後援会役員会(理事会)開催される!

三蔵祭(大学祭)期間中の10月24日(土)の11時から福山大学後援会役員会(理事会)が19号館1921教室で開催されました。

喜多村後援会長、牟田学長の挨拶に続いて会長・副会長・監事・理事が自己紹介を行い、

その後、8月下旬から9月上旬に全国13会場で開催された後援会地区別総会の報告がありました。

総務部 庶務課



挨拶する喜多村後援会長



役員会の様子

編集後記

2009年度後半期の活動の報告です。第1回ホームカミングデーが開催されました。また、社会連携センターの本格的な活動が進み、福山大学の地域社会における存在感は増しています。今後のますますの発展を祈念し、122号をお送りします。

発行 福山大学
編集 福山大学広報委員会
〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
TEL (084) 936-2111 FAX (084) 936-2213

<http://www.fukuyama-u.ac.jp>